

特別活動研究委員会

世話役 石澤和人（並柳小学校）

委員長 山守弾（梓川小学校）

副委員長 篠田昌利（旭町中学校）

委員 中山豊（旭町小学校）

川上桂奈（明善小学校）

長幅樹（並柳小学校）

長尾友紀（信明中学校）

目次

- I 実践事例紹介
 - 1、研究のテーマ
 - 2、テーマ設定の趣旨
 - 3、学習指導案
 - 4、授業の様子
- II 今後に生かしたいこと

I 実践事例紹介

1、研究のテーマ

お互いの思いや願いを聞き合い、折り合いをつけながら、よりよい方向を見いだす活動を通して、「自分もみんなも気持ちよくなる」ような学級や学校の生活づくりを主体的に取り組んでいく子どもの育成

2、テーマ設定の趣旨

学習指導要領では、学級や学校の生活づくりにおける集団の一員として、自らよりよい生活を築くための話し合い活動や人間関係づくりを重視している。今年度は、旭町小学校の自分たちの手でつくる音楽会に向けた追究の授業を二度参観し、話し合い活動や人間関係づくりの活動における児童生徒の学びの姿をとらえ、その姿を支えた背景や要因を探り、テーマに迫りたいと考えている。

3、学習指導案

特別活動 学習指導案

6年1組 中山 豊 6年2組 北野 恭平
松本市立旭町小学校

1 期日・場所・時間 令和5年9月13日(水) 視聴覚室 2校時

2 授業学年・人数 6学年 6年1組 33名 6年2組 32名 計65名

3 活動名 「音楽会プロジェクト」 【学校行事(2) 文化的行事】

4 単元展開

	学習活動	活動内容 ○支援	時間
1	音楽会プロジェクトの提案しよう。	・学年会長(音楽会リーダーが決まるまで会の進行役)が学年全体にプロジェクトの提案をする。 ・音楽会を自分たちが進めていくというイメージを発表する。	1
2	6年の曲への願いを出し合おう。	・学年集会で自分たちの曲への願いを出し合う。 ・候補の中から曲決めのキーワードを選ぶ。	1
(3)	曲の候補を考えよう。	・願いに沿った曲を考え、フォームのアンケートに選んだ理由と候補曲を挙げる。 ○子どもたちが答えやすいようなフォームのアンケートをつくる。	週末
4	曲を味わい合唱曲を決めよう。	・候補に挙がった曲を聴き、理由とともに順位を付ける。 ・投票数の多かった曲を決める。 ○歌詞カードや理由記入用紙を準備する。	1
5	学年の目標を決めよう。	・学年集会を開き、願いや音楽会全校目標と照らし合わせながら、目標を決める。	1
(6)	目標を達成するための係を考えよう。	・学年の目標から、それを達成するためにはどんな係が必要か考える。	週末
7	係の精選をしよう。	・学年会長を中心に、出てきた係の中から必要な係を10に絞る。 ○他学年にお願いする係や企画を立てられない係など助言をする。	休み時間
8	係決めをしよう。	・プロジェクトの係を見て、自分がやりたい係を選ぶ。 ・プロジェクト係のリーダーを決める。	1

		・プロジェクト系の目標を決める	
9	各プロジェクト係にやってほしいアイデアを出そう。	・ジャムボードを使い、各プロジェクト係に取り組んでほしいアイデアを出し合う。	1
10	プロジェクト係で企画を考えよう	・友達から出てきたアイデアを参考に、企画を考える。 ○企画書と音楽会カレンダーを全員に配布する。 ○学年目標や係目標と活動にずれはないか、確認しながら助言する。	1 本時
11	企画の検討と提案をしよう。	・各係で考えた企画を、学年に下ろし、意見をもらう。 ・友達の意見を元に、企画書の再構成を行う。	1
12	企画を実施するための準備をしよう。	・必要なものを作り、企画を運営していく準備を整える。 ○必要な物品の相談に乗りながら準備をする。	適時
(13)	企画を進めよう。	・各係で企画したことを実際に実施する。 ○係の活動時間がぶつからないように、大きな音楽会カレンダーを用意し、実施日を書き込んだり、予定を調整したりする。	本番に向けて 適時
		音楽会本番	
14	音楽会プロジェクトの振り返りをしよう	・音楽会リーダーを中心に、音楽会の振り返りをする。 ・振り返りの内容や会の進行は係で推進する。	1

5 本時案

(1) 本時のねらい

自分たちの活動への見通しを持ったり、実践するまでの時間を見通したりする場面で、友達のアイデアを参考に仲間と意見交換をすることを通して、係の企画を考え合うことができる。

(2) 本時の位置 (全9～14時間中の第7時)

前時：各プロジェクト係へのアイデアを出し合った。

次時：係ごとの企画書を整え、全体に提案する準備をする。

(3) 指導上の留意点

・企画書の見本になるものや音楽会カレンダーのついたプロジェクト用紙を事前に用意する。

(4) 学習展開

段階	学習活動	児童の反応	○指導・支援	時間
	1 プロジェクト	・今日は、各係の企画を考えて	○係ごとに座り、企画書や	

<p>導 入</p>	<p>始めの会 (司会：音楽会リーダー) ① 始めの言葉 ② 先生の話 ③ タイムスケジュール</p>	<p>もらいます。学年の目標や係目標を意識し、企画しましょう。 ・すでにみんなから出されているアイデアを参考に企画書を考えてください。</p>	<p>付箋、筆記用具の準備をするように指示する。 ○板書の仕方や時間配分など事前にリーダーと打ち合わせをしておく。 ○学年、係目標を大切に企画を立てるよう指示する。</p>	<p>5</p>
<p>Today's Goal : 音楽会学年目標や係目標、時間を意識した係の企画を考えていこう。</p>				
<p>展 開</p>	<p>2 友達のアイデアを参考に、自分たちの企画を考え、企画書に書く。</p>	<p><子どもの活動の具体> ○学年の目標や係目標、時間の見通しを持ちながら友達のアイデアを参考に企画を考える。 ・このアイデアは、うまく取り入れて企画を考えたいな。 ・このアイデアは時間的にも難しいから、実施できそうもないな。 ・こんなことできるかな？先生に相談してみよう。 ・このアイデアがよく分からないから、本人に聞いてみよう。</p>	<p>・アイデアから企画がまとまらない係に助言をする。 ・実現可能なものか、子どもたちの相談に乗る。 ・アイデアの具体的なイメージが持てないようなら、本人に聞いて来るように促す。 ・企画書の書き方に苦戦している係には、例について説明し、書き方の確認をする。</p>	<p>30</p>
<p>終 末</p>	<p>4 振り返りを書く。 5 振り返りの発表 終わりの会</p>	<p>・全部はできなかったけど、何となく見通しが持ててよかったな。 ・友達からアイデアをもらったことで、企画書が埋まってきたな。 ・時間がなかったなので、休み時間に集まろう。 ・友達にアイデアをもらったので、企画書が書けた。 ・もう少し、企画を練りたい。</p>	<p>○プロジェクト用紙の中に今日の振り返りを書くように指示する。 【評価】音楽会の学年目標や時間を意識しながら企画を考えたことができたか。(企画書への記入の様子、発表、振り返り) ○今日の活動の良かった点などを挙げ、次の会への意欲を持たせる。</p>	<p>10</p>

	① 先生の話 ② 終わりの言葉	・これで第1回目の音楽会プロジェクト会を終わります。	○企画書をリーダーが集めるように指示する。	
--	--------------------	----------------------------	-----------------------	--

6 参考資料

《音楽会全校スローガン》

「協力・楽しい笑顔の花が咲くような音楽会を創ろう」

《音楽会学年目標》

「～感謝～ 小学校最後の音楽会をみんなで創り上げて、周りに感謝を伝えよう！」

《音楽会プロジェクト係と主な活動内容》

【全体に関わるもの】

- ・音楽会リーダー係：音楽会全体を見通し、プロジェクトの進行や会の運営を行う。

【全校に関わるもの】

- ・全校音楽係：全校音楽の運営を行う
- ・アナウンス司会係：音楽会当日の司会、アナウンス全般を行う
- ・スライド曲紹介係：各クラス（学年）の曲紹介の後ろで、スライドを流す。

【学年に関わるもの】

- ・自主練習係：自主練習の時間を決めたり、呼びかけをしたりする。
- ・ポイント係：曲のポイントになる部分を考え、練習のときに指示を出す。
- ・活動記録係：練習の様子を記録したり、新聞でまとめたりする。（足跡を体育館に掲示）
- ・X ツイッター係：練習で友達の良かった所を書いてもらい、日々掲示していく。
- ・招待状係：お家の方に感謝を伝えられるような、招待状の型を提案し、書いてもらう。
- ・お楽しみ係：音楽会が終わった後のお楽しみ会の企画、運営を行う。

4、第1回公開授業の様子「第10時 プロジェクト係で企画を考えよう」

【お楽しみ係の様子】担当：山守

A児・・・女の子 B児・・・女の子 C児・・・男の子 D児・・・男の子 E児・・・男の子

A児 なんの企画やる？

ジャムボードを見る。

A児 みんなが楽しめる遊びやゲームを考える。

B児 みんなが知ってそうな音楽ならす？

ジャムボードを頼りにみんなが楽しそうな遊びを考えるがなかなか話合いが進まない様子であった。それでも全校の意見を集めたジャムボードを頼りに「みんなが楽しめる」という言葉をキーワードにそれぞれが企画を考える時間が続いた。

その後、何人かの先生の「そんなに難しく考える必要はなく、これまでみんながお楽しみ会とかでやってきた経験から考えてみたら？」という助言があり、話し合いは進んでいった。

A児 ジンギスカンを踊るのはどう？

C児 嫌だよ！踊れるの？

A児 踊れるよ。

D児 イントロクイズとかどう？ 曲のはじまりをあてるやる。

A児 いいかも

「みんなが楽しめる」「音楽に関係ある」という所に焦点をあてた遊びを提案したD児の意見によって話し合いは進む。

C児 椅子取りゲームは？

A児 音楽が流れているからか。

A児はグーグルで「音楽にかかわるゲーム」と検索する。

A児 リズム遊びとかはどう？

その後、また、話し合いが進まなくなるが、中山先生が来て、助言を行う。

中山先生 振り返りビデオとかどう？

中山先生 遊びだけだと、期間の前半やるのがなくなってしまうから、前半にやることをないといけないね。

中山先生 スライドを作ったり、練習風景の写真を撮ったりしてさ。

D児 好きな曲をならすのはどうかな？けど好きな曲って人それぞれだからなあ。

中山先生 そうだね。〇〇さん好きな曲とかある？

E児 おじゃまじょカーニバル！

中山先生 いいじゃん、いいじゃん

中山先生の助言のおかげで本時のめあてである「時間を意識する」ということに目を向けることができた。おかげで準備期間の前半に行うことが明確になった。

【考察・観察】

子どもたちは、話し合いが滞った時、ジャムボードを見たり、google 検索を活用したりしながら話し合いを進めていた。子どもたちが困った時の手立てとして、タブレットを活用できたのは、素晴らしかった。また、話し合いが進まない時に、担任が表れて助言をしていたが、その助言のおかげで自分たちの考えに安心感、自信を持つことができた。担任と子どもたちとの信頼関係があるからだと思う。

お楽しみ会グループでは、時間や係目標を意識した企画を考えることができていた。また、課題に対して主体的に話し合う姿も見られた。自分たちで協力して一から作り上げる楽しさを感じているからだと考える。今回は、「感謝」というところに意識が向いていなかったため、これからの活動の中でそこに着目した企画も考えられると良い。

全体を通して思ったこととして、トップダウンで音楽会を行うよりもはるかに子どもたち自身が成長することができる。話し合いがうまくいくグループ、そうではないグループ、様々だとは思いますが、このような経験が大切である。子どもたちが友だち、担任、音楽専科の先生、他学年の先生、地域と関わり、協力しながら、行事を進めていくことが協動的な学びにつながる。係の企画が進みだすにつれて、さらに子どもたちの主体性が強く表れてくるのではないかな。

本校でも現在音楽会の準備を進めている。中山先生の実践を現在の学年でも実践してみることにした。

中山先生、お忙しい中、授業を準備していただきありがとうございました。大変勉強になりました。

【X（ツイッター）係】 担当：篠田

1 追究の様子

①必要な情報（JamBoard と計画カードの記入例）を足場に目標やねらいを決め出した場面

リーダーの子たちが板書した本日のゴールを学習カードに書き写す。

学習カードを眺めながら、目標を考える。

3分ほど各自で考えるが、アイデアが思い浮かばない。

まあさ：「ジャムボードを見たらどう？」

かなみ：ジャムボードのページを開く

全員で jamboard をじっと見つめる（写真1）

しばらく沈黙が続く。

入山：「お手本を見てみよう」

入山さんの言葉がけて全員が例を見に行く（写真2）

例を見て書き方を確かめた後、かなみさんが学習カードにねらいを「わかりやすくツイッターにまとめる」と書き、係の仲間に見せる。班員はそれを目標の枠に書き写す。続けて、かなみさんが「学年のよかったところや課題を紹介しながら、ツイッターにのせよう」とねらいの枠に書き、班員に紙を見せる。入山さんはそれを書き写すと最後に「！！」を二つ書き加える。



写真1 Jam board に書かれた内容を確認する



写真2 教師や5年生による例を眺め、書き方や内容を確認する

【考察】

初めて係内で企画内容を考えた一時間。X（ツイッター）係の子供たちは、Jamboard で集められた情報をじっくりと見つめ（写真1）、学年の仲間の意見を参考にしつつ自分たちの係の目標やねらいを定めようとしていた。また、5年生の計画カードの例や教師による例を眺め（写真2）、書き方や内容を確認し表現方法を確認して書いていた。“周囲の人に感謝を伝える音楽会”を実現するために、自分たちがどんな「情報発信」をしたらよいのかを考え、目標やねらいを定めた。

これらの追究の背景には、教師による意図的な環境の構成（「本日のゴール」の提示、jamboard による情報収集、計画の例の提示）が、子供たちの主体的な追究を支えていた。

②仲間とアイデアを共有し、企画を練り上げていった場面

アイデアを思いついた入山さんがまあささんに話しかける。

入山：「音楽会だから音符で書くとかな？」

まあさ：「どういうこと？」（写真3）

入山「こんな感じで」

入山絵で描きながら示す。

まあさ「あーいいね。よかったところと課題も書いてもらえそう」

入山：「そうだね」「ふせん」と紙に書き加える。

その後、その紙を係の仲間に見せて共有する。

かなみ：「それいいね」

竹島：「音符のところは画用紙でもいいかもね」

入山：アイデアを紙に書き加えていく（写真4）

入山：「ふせんって何色がいいかな？」

竹島：「いいことは明るい色がいいんじゃない？」

入山：「いいねーみたいなか…あーじゃあ黄色とか」

まあさ：「いいんじゃない、黄色よさそうだよ。」

入山：「課題は？水色とか？」

まあさ：「いいんじゃない」



写真3 まあささんにアイデアを相談する入山さん



写真4 学習カードに仲間と話して膨らんだアイデアを書き加えていく入山さん

【考察】

入山さんは、自分の思い付いたアイデア（音符のマークによかったところや課題を書いてみんなに見てもらう）をまあささんに伝え（写真3）、より伝わるように絵で示した。アイデアをまあささんに賛同してもらおうと、入山さんは自分のアイデアを係全体に伝えた。竹島さんの「画用紙でもいいかもね」という言葉を受けて、入山さんは膨らんだアイデアを書き加えた（写真4）。また、掲示物を目にする学年の仲間のことを想定し、ふせんの色を何色にしたらよいかをまあささんに尋ねた。隣で聞いていた竹島さんに「明るい色がいいんじゃない」というアドバイスをもらおうと、入山さんは「黄色がよい」と結論付けた。入山さんは、周囲の仲間と協働し、よさや課題を書くための付箋の色を決め出した。

これらの追究の背景には、「感謝される音楽会にしよう」という全体目標に対する自分たちの願いがあり、子供たちの追究を支えるための支援（仲間と向き合って作業ができる机の配置や、ねらい、目的、や内容を書ける学習カード、係でアイデアを練るための十分な時間確保）があった。

【活動記録係】担当：長幅

① 児童の様子

M：「企画なにやる？」
C：「PC見てみればいいじゃん」
M：「そもそも係目標ってなんだっけ」

学習問題を意識した姿だと感じました。日頃の授業の姿だと感じました。

C：「新聞つくろうか」
C：「新聞を作るだけじゃなくて、クラスルームにものせようよ」
C：「クラスルームにのせる、ポスターをつくる、プリントを配る、スライド係と協力すればいいんじゃないの」
C：「プリントは紙がもったいないな」

他の係を意識しながら協働的な学びをしていると感じました。

中山先生登場

T：「新聞とかつくらないの？」
C：「クラスルームに新聞ものせればいいじゃん」
T：「写真撮るなら許可とらないといけないな」
T：「足跡を残そうってことは覚えている？体育館に何か掲示する」
C：「音楽便りを週に1回だす？」
C：「全校に配る？」
C：「各クラスに一枚でいいんじゃない？詳しく見たい人はクラスルーム見てって言おう」

② 授業の感想

授業を参観させていただき、ありがとうございました。子どもたちが主体的に考えている様を見ることができました。

子どもたちが授業一言目から自分たちから動く姿を見て、驚きました。リーダー係の子どもが、自分ごととして考え動いている姿を見て、このような授業をしてみたいと思いました。きっと学習問題を先生も一緒になって考えているのだと思います。

また、どのようにして子どもたちが自ら動ける環境をつくったのか知りたいです。準備の段階で、何を用意したら子どもたちが動けるのか、どのようにしたらこのように見通しを持てるのか、お聞きしたいです。

授業公開本当にありがとうございました。

【招待状係】担当：長尾

① 児童の様子

・男子と女子の中があまりよくないのか、始終軽口を言い合っていました。男子は男子で、女子は女子でそれぞれ動いている印象で、男女間を超えて意見を出し合う様子はあまり見られませんでした。

・女子はジャムボードに貼ってある付箋のアイデアから、どれを採用するか分類をしていて、その間男子は企画名を何にするか考え、自分たちのワークシートに書いていました。何回か男子が女子に企画名は自分たちで考えたものでいいか尋ねていましたが、男子がふざけていたためか（すみません、うまく聞き取れなかったです）、女子には却下されていました。

・ジャムボードの付箋を分類する際、同じ意見の付箋をグループにしてまとめたり、いいなと思った付箋はサイズを大きくして見やすくしたりするなど、自分たちで工夫しながら取り組んでいました。

・9時50分ごろ企画名を書き終わりました。企画内容について、付箋のアイデアを参考にして「練習の様子を載せる、保護者や盲学校の人にも渡す」と記入していました。困ったときには男子も女子もホワイトボードのところへ移動し、先生が掲示した企画例をチェックしに行っていました。

・その後男子は企画のねらいを書き、女子は企画のやり方について書いていました。女の子の一人が「枠をパソコンで作って周りに絵をかいてもらうのはどうか」と声をかけ、別の子が「文字もパソコンで作ろう」とアイデアを出し合っていました。振り返りを書く際には「これでいっか」「これでいいよね」と女子同士で確認をしあっていました。

・振り返りを書く際には、「男子は企画名やねらい、内容を決められてよかった」、女子は「内容を考えるのが少し大変だった」と書いていました。

① 授業の感想等

お忙しい中、授業を参観させていただきありがとうございました。招待状係の子たちはなかなか考えがまとまらない様子でしたが、先生が「誰に向けて送るの？」と声がけをされていて、それをヒントにどんな招待状にするか少しずつイメージをもてたのかなと思いました。ただ音楽会の学年目標や時間への意識は薄かったので、これから話し合いをさらに深めていく中で、それが企画にどう反映されていくかが楽しみだと思いました。初めての企画ということでうまくいかないこともたくさんあると思いますが、こういった経験を積み重ねていくことで中学やその先の進路につながっていくのだなと思いました。

【ポイント係】担当：川上

① 児童の様子

男子3人、女子3人の6名のグループでした。ゆうかさんがおそらくリーダー。それに、かほさんが意見を言う形で話し合いをしていました。

【ポイント係の目標】

みんながもりあがるような歌にするために、ポイントを分かりやすく伝えよう！

(前略)それぞれが紙に目標を記入した後は、次の活動への見通しがもてず、互いに互いの様子を見合っていた。その後、4人の児童が5年生の企画書を見に行った。それでも見通しがもてずにいると、北野先生に、「こんなことをやったら歌がめっちゃよくなるじゃん！そんな活動を考えてみて」と言われて、かほさんは、「やり方を考えたい」と、ゆうかさんの方を向きながら言い、紙に歌詞カードの絵を描いた。しかし数分後、描いた絵を消しゴムで消した。男の子の1人が、「盛り上がるは、みんなが喜ぶっていうか」と考え始めたと同時に、ゆうかさんがかほさんに、「さっきのやつでやればよくない？」と、先ほどかほさんが描いた歌詞カードの絵を描き始めると、他のメンバーもゆうかさんの紙をまねして描き始めた。

その後、Jamボードの付箋を見返すかほさん。紙に用意するもの等を記入しながら、「分かんない。こんな感じでいいのかな。」と、時間をおいて2度呟く。その時、北野先生が来て、「君たちのプロジェクトは、他の係との連携が必要だね。Jamボードに書いてあることがヒントになるかも」と声をかけた。ゆうかさんが、「自主練習が終わった後、今日ここ注意して歌ってくださいと言うのは」と言うと、かほさんが「普通の練習の時もそうでしょ」と言い、続けて、「練習の終わりにも、ここが良かったとか、ここを直そうとか言うのは？それで次の時も生かせるじゃん」と意見した。その話し合いを聞きながら、隣にいた男の子は、Jamボードを見返していた。

② 授業の感想等

先生は、子供たちが見通しをもてるように言葉をかけたり、話し合いのきっかけを作ったりという立場で子供たちに関わっていた。本時においては、係の全員が主体的に話し合うという姿ではなかったものの、かほさんとゆうかさんを中心に、「みんなが盛り上がる歌になるように」を、それぞれが考え続けていたように思う。必要感をもって一人一人が考え、必要に応じて子供たち同士で話し合う、そのような時間が、本時とても素敵だった。また、子供たちが進めるということで、自分たちの音楽会なんだという意識でいられることがとても良い。授業の前に、主となる子供たちと担任が話す時間が必要になり、担任が進める授業よりも計画性が必要になってくるということも感じた。

本日は、授業を公開いただき本当にありがとうございました。私も、子供たちが主体的に考えていく、そんな時間をもっと大切にしていきたいと思いました。

第2回公開授業の様子 「第14時音楽会プロジェクトの振り返りをしよう」

お楽しみ係 担当：山守

① 児童の様子

それぞれの子どもたちの振り返りは以下のようである。

A 児「みんなを楽しませることができたし、もりあげることができてよかった。プログラム通りに進めることができた。でも、時間をかけすぎたので、イントロクイズができなかった。」

B 児「みんなを楽しませることができた。だけど、きめたような選曲ができなかった。」

C 児「時間をたくさん使いすぎてしまったので、イントロクイズができなかった。」

D 児「みんなを楽しませることができた。もっとゆっくり取り組めるように計画したい。来年の6年生にも同じように音楽会を進めてほしい」

E 児「イントロクイズが予定していたのにできなかった。踊るのに夢中になってしまったのが、いけなかった。時間を見ながら進めることができればよかったかな。でもプログラム通りにすすめることができたし、わかりやすく説明することもできたと思う。」

子どもたちは、時間通りに進めること、計画通りに進めることの難しさを感じたようだった。また、その後、担任がグループに来た時は、こんな意見が見られた。

「時間配分を考えればよかったな。時間が足りない。」

「楽しくなさそうな人もいた」

「早く終わった人が悲しそうだった。」

「リハーサルをやっておけばよかった。」

子どもたち全員を楽しませることの難しさ、早く終わった人への対応、リハーサルの重要さに気付くことができた。また、自分たちでお楽しみ会を行うことでわかったこと、改善点を話し合うことができていた。素晴らしい振り返りであったので、ぜひ次の機会に生かしてほしいと感じた。この振り返りを改善点としてまとめて、スプレッドシート等に保存しておき、来年の活動や次のお楽しみ会に生かすことができればよいと感じた。

② 授業の感想等

お楽しみ会係では、「来年の6年生もこのように進めてほしい」という考えが出ていた。きっと子供たちの中でこの活動が「充実していて楽しかった」と感じることができているからだと思う。教師主導型の音楽会ではけっして出てこなかった意見だろう。

学年全員での振り返りの場面では、「準備すること」「期限を守ること」「均等に仕事を分担すること」「大きなことで必要なことを伝えること」「助けてくれる先生のありがたさ」など社会で生きていく上で大切なことを述べる子どもたちの姿があった。自分たちで音楽会を進めることで多面的な面から反省を述べ、次の活動に生かしていこうとしていた。

この背景には、教師の存在が大きいと考える。思い切って子どもたちに仕事を任せて、うまくいかない時に教師が支えていくことの大切さを感じることができた。参観させていただきありがとうございました。

① 児童の様子

C:「今回の振り返りは、合唱、合奏の振り返りではありません。自分の係を通してどんな力がついたのかを振り返る時間にしてください。」

→ふりかえる目的を説明していたので、子どもたちが何を考えればいいのか分かりやすかった。

係目標「みんなの頑張りが分かるような記録をしよう」

・個人

「タブレットで書くことはできたけど、発行ができなかったな。」

「友達と協力して書くことはできたな。」

「記録書けなかったな。」

・グループ

「新聞をクラスルームに載せれるときと、載せれない時があった。」

中山先生登場

T:「なんで載せれるときとそうでない時があったのかな。」

C:「間に合わなかった。」

T:「計画たてた？」

C:「そうか計画たてないとできないな」

② 授業の感想等

立ち上がった時の第一回は、子どもたちで「新聞をつくろう、全校に配布、クラスルームで見てもらう」という大きな仕事内容は見通しを持つことができていました。今回の振り返りでは、「新聞を作ったけど載せることができなかった」という振り返りがありました。なんのために新聞を作って全校に見せるのかということのを第一回で押さえておく必要があったのだと思いました。目的や思いを中心に企画を進めていく必要さを感じました。

中山先生が全体の机間巡視をしている時、的確な声かけをしていたことが印象に残っています。私が見ていた係は、なかなか話し合いが進まなかったのですが、中山先生の声かけをきっかけに、いろんな子が発言をし始めました。子どもたちが動いていくのですが、担任の全体を見る力が必要だなと感じました。

① 児童の様子

・個人の反省記入では、自分の活動を振り返り頑張ったことなどを中心に記入をしていました。

○配りたい期間までには学級閉鎖で配れなかったが、音楽会までには配れてよかった。

○インフルだったけど配れてよかった。

○リーダーが2組だったので休み時間に連絡しにくく作業できなかったけど、総合の時間に頑張って無事招待状を配れた。

・全体の振り返りでは、招待状を製作した際の個々の取り組みについて話をしていた。

→1人の男の子(みなと君)が考えた反省を代表の子が言うということになり、「早く考えて」という声が女子から上がった。その後ワークシートを見ていた女の子が「来年度に伝えたいことは何?」という投げかけをして、来年度に向けて伝えたいことを考え始める様子があった。グループの山口君という男の子は「計画的にする」と振り返りに書いていたが、彼からの発言はなかったのが少し残念だった。それぞれが書いたことを出し合ったり、聞きあったりする時間が話し合いの前であれば、彼の考えも取り入れた振り返りになったのではないかと思う。最後はリーダーの子が話し合いで出てきた言葉をまとめ、「一人一人がやることができているなかったので、全員が考えないと遅れてしまうから、全員が考えて行動した方がいい」という反省になった。

・全体の司会をする児童が大きな声でハキハキと進行をしていてとても良かったです。

・係りごとの振り返りを発表する中で、「この係りはこういう人に向いている」という話があり、下級生がこれから同じように活動を行う際とても参考になると思いました。

② 授業の感想等

自分たちで企画し、実行してきたことで、「自分たちでやり遂げられた」と感じる音楽会になったと思います。今回の企画を通して、自信をもてたと思うので、今回の経験を生かしてさらに活躍して欲しいと思いました。お忙しい中授業を公開していただきありがとうございました。

① 児童の様子

個人の振り返りの際、ゆうかさんが「強弱カードやってよかった」と呟くと、かほさんが「いや、あまりよくなかったじゃん」と言い、ゆうかさんは「そう？」と言ってはいるものの、ゆうかさんは、振り返りに強弱カードのことを書くことはしなかった。

その後、ゆうかさんが、「ポイントを伝える時間をとった方がいいよね」と言うと、かほさんが紙に「ポイントを伝える時間をとってください」と書き始め、それと同時に、ゆうかさんと同じ係のもう1人の女の子も、互いの紙をちらちら見ながら、振り返りを書き始めた。その後は、音楽会とは別の話題を話しはじめ、なかなか振り返りには気持ちが向かない様子だった。

② 授業の感想等

音楽会から日にちが経ってしまっていたためか、前回は活発に意見を言っていたゆうかさんとかほさんも、関係のない話をしている男子に引きずられる形で、音楽会に関する話はほとんどしていませんでした。ゆうかさんの「強弱カードやってよかった」という言葉に対して、かほさんが「いや、あまりよくなかったじゃん」と言い、それで話が終わってしまいましたが、お互いがどのような視点で強弱カードを見ていたのかを語り合うことができれば、強弱カードについても振り返ることができ、次につながったのかなと思います。今回は、なんのために振り返りをしているのかが子どもたちには明確ではなかったこと、かつ、教師の支援が入らなかったことで、話し合いにならなかったのかもしれない。

子どもたちは、音楽会のプロジェクト活動については満足している様子でしたので、ポイント係としてこんな活動をして、それらの活動1つ1つに対して、友だちの姿（反応）はどうだったのか、よりよくするには、どのように改善していくことができるかなどの視点を与えて振り返りをするのも1つの手かなと思います。

II 今後に生かしたいこと

旭町小学校6学年では、目標設定や役決め、全校音楽の進行等、子どもたちが進める「音楽会プロジェクト」を実践してきた。子どもたちが掲げた目標は、「～感謝～ 小学校最後の音楽会をみんなで創り上げて、周りに感謝を伝えよう!」。これを達成するために、様々な係を作り、企画を実行してきた。

第一回公開授業は、係の目標や企画内容を企画書にまとめる授業だった。お楽しみ係では、「みんなが楽しめる」という点に焦点を当て、イントロクイズやダンスを行うことにした。主体的に話し合っていた背景には、「六学年の子どもたちに楽しんでもらいたい」「六学年の子どもたちにも感謝されたい」という想いや話合いが進まない時に同じ目線にたってアドバイスをくれる担任の姿があった。

第二回公開授業は、音楽会の振り返りであった。どんなことが学びになったかを考える場面で、「計画をたてる大切さがわかった」「大きな声でみんなに必要なことを伝える力がついた」「均等に仕事を割り振る難しさがわかった」という感想を発表していた。今までの教師主導型の音楽会では、出ることではない振り返りではないだろうか。

私もこの実践を参考にし、自校で音楽会プロジェクトを行った。学年の子どもたちと目標を決め、目標を達成するために様々な企画を子どもと共に考えた。子どもたちは、自発的に休み時間に集まり、企画の準備を進め、主体的に活動する姿があった。また、音楽会が終わった後の振り返りでは「プロジェクトを進めてきた実行委員の人たちへ感謝したい」「みんなを静かにまとめることって難しい」「プロジェクトがあったおかげ楽しい音楽会になれた。プロジェクトのメンバーに感謝したい」等、多面的に感想を述べ、「やってよかった」という思いが伝わる振り返りであった。

この実践から、「子ども主体の目標作り」「子どもたちに任せる部分を意図的に作ること」「その活動を教師が支えていくこと」の大切さを学ぶことができた。このような活動が、「自分もみんなも気持ちよくなる学級」、「主体的に動く子どもの育成」、「すべてのことを『自分事』としてとらえる子ども」につながると考える。これからも、子どもたちが主体的になり自分もみんなも気持ちよく行動できる学校を目指して、研究を進めていきたい。